

# 政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ
施策	1-1-1 緑と水辺の保全・活用

指標NO	1
------	---

指標名	市内の花や緑は豊かだと感じる	単位	%
-----	----------------	----	---

担当局(区)	都市局
--------	-----

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	64.0	67.0	70.0	△
現状値	61.4	61.4	—	—	

目標設定の考え方	緑地の保全や緑化の推進、花のあふれるまちづくりにより、身近に感じられる緑や花の量的拡大や質的向上を図り、豊かさの値の向上を図ることを目指し、目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】	<p>身近に感じられる緑や花の量的拡大や質的向上を図るため、実施計画事業など様々な取組みを実施してきたが、平成26年度末目標値に到達しなかった。理由としては、計画事業「市民との協働による公園管理」は目標を達成し、「緑と花の人材育成と活動拠点づくりの推進」も概ね目標を達成しているが、市民生活で目にすることが多い緑に係る事業（「市民緑地の設置」や「緑地協定の推進」、「緑化意識の普及啓発（緑のカーテン）」など）に未達成事業が多いことから、生活実感が現状維持にとどまっていると考えられる。</p>
【課題及び今後の取組みの方向性】	<p>「市民との協働による公園管理」と「緑と花の人材育成と活動拠点づくりの推進」については、第2次実施計画において引き続き推進する。また、「中心市街地の緑化の推進」や「緑化意識の普及啓発」などの緑の量を増やし、質を高める事業については、PRを充実する。</p>

## 指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	特別緑地保全地区の指定	特別緑地保全地区の指定	11地区(51.3ha)	2地区(3.4ha増)	13地区(54.7ha)	13地区(61.1ha)	達成	268,636
2	市民緑地の設置	市民緑地の設置	16か所(19.4ha)	6か所(6ha)	22か所(25.4ha)	19か所(21.8ha)	未達成	767
3	緑地協定の推進	緑地協定の認可	175地区	2地区/年増	181地区	176地区	未達成	0
4	工場・事業所等の緑化の推進	緑化協定の締結数	841件	5件/年増	856件	854件	概ね達成	0
5	緑化意識の普及啓発	緑のカーテンの実施(公共施設)	228か所	20か所/年増	288か所	192か所	未達成	0
6	中心市街地の緑化の推進	屋上・壁面緑化への助成	—	5件/年	15件	助成 2件	未達成	912
7	花いっぱい地域活動の推進	活動団体	441団体	9団体/年増	468団体	442団体	未達成	0
8	緑と花の人材育成と活動拠点づくりの推進	緑と花の地域リーダーの育成	135名	30名増	165名	159名	概ね達成	0
9	緑と花のコンテストの実施	花壇コンクール参加団体	70団体	5団体/年増	85団体	49団体	未達成	0
10	市民との協働による公園管理	千葉公園(ボランティアによる花壇管理)	6か所	4か所	10か所	10か所	達成	876
11	市民との協働による公園管理	昭和の森(ボランティアによる花壇管理)	5か所	2か所	7か所	7か所	達成	

## その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
-----	-----	--------	--------	-------------	--------	--------	----	-------------

# 政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ
施策	1-1-1 緑と水辺の保全・活用

指標NO	2
------	---

指標名	身近な水辺に親しみを感ずる	単位	%
-----	---------------	----	---

担当局(区)	都市局
--------	-----

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	48.0	49.0	50.0	△
現状値	46.5	46.7	—	—	

目標設定の考え方	親水護岸や公園の整備、谷津田の保全活動の推進により、身近な水辺に触れあう機会の創出を図ることを目指し、目標値を設定した。
----------	--

**【達成状況の分析】**  
 市民に身近な水辺に触れあう機会を創出するための取組みを行ってきたが、平成26年度末目標値には到達しなかった。計画事業「稲毛海浜公園の改修」や「公園緑地の整備」は目標を達成、また、「谷津田の保全と活用の推進」の一部の取組項目は目標を概ね達成しているが、「稲毛海浜公園」は実施設計や調査、「公園緑地の整備」は用地取得、「谷津田の保全と活用の推進」は谷津田保全協定の締結、「中溝水路の整備」は休止するなど、計画事業の内容が実態として現状の変化をとまなうものではないことから、市民実感としてはあまり変化しなかったものと考えられる。

**【課題及び今後の取組みの方向性】**  
 引き続き、水辺環境の保全を進めるとともに、第2次実施計画事業「稲毛海浜公園の再整備」など施設整備を伴う事業については、早期に実現するよう努める。なお、稲毛海浜公園検見川地区の活性化施設については、民間事業者による施設整備工事が進んでおり、平成27年度中の供用を予定している。また、引き続き、谷津田保全区域の指定拡大や保全活動団体等への活動支援により、谷津田の保全と活用を推進するとともに、水辺を保全するため、地元住民や水辺を利用する周辺地域住民との協働作業を進めるなど、水辺再生活動を推進していく。

## 指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	稲毛海浜公園の改修	ヨットハーバーの浚渫	—	測量・実施設計	実施設計	実施設計	達成	5,756
2	稲毛海浜公園の改修	検見川の浜活性化施設整備	—	調査	調査	調査	達成	
3	公園緑地の整備(都川水の里公園)	都川水の里公園	供用 2.2ha	用地取得 0.6ha	供用 2.2ha	供用 2.2ha	達成	2,149,382
4	谷津田の保全と活用の推進	谷津田保全協定の締結	42.8ha	9ha 拡大	51.8ha	51.2ha	概ね達成	840
5	谷津田の保全と活用の推進	NPO団体等への活動支援	1団体	3団体増	4団体	3団体 ★	未達成	
6	望ましい水循環・水環境の創出	中溝水路の整備	基本計画	調査	調査	休止	休止	2,778

## その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
-----	-----	--------	--------	-------------	--------	--------	----	-----

# 政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ
施策	1-1-1 緑と水辺の保全・活用

指標NO	3
------	---

指標名	市街化区域内の緑地の割合	単位	%
-----	--------------	----	---

指標の説明	都市公園やポートパークなど公園に準じる施設、特別緑地保全地区、市民緑地、生産緑地、保安林、保存樹林及び緑地協定地区内の緑化地等の面積が市街化区域面積に占める割合	担当局(区)	都市局
-------	--	--------	-----

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	10.5	10.7	11.0	×
現状値	10.3	10.2	-	-	

目標設定の考え方	市民が身近に触れることができる市街化区域内の緑は貴重であることから、保全・活用を進めることとして設定した。
----------	---

**【達成状況の分析】**  
 市街化区域内の緑地の保全・活用のための取組みを行ってきたが、平成26年度末目標値に到達しなかった。  
 計画事業「特別緑地保全地区の指定」をはじめとする多くの事業が目標事業量を達成、又は概ね達成しており、緑地面積は増加してきたが、平成26年4月に施行した「千葉市工場等緑化推進要綱」の改正により、湾岸地区における工業系用途地域の事業所系の緑化率を緩和したことなどに伴い、緑化協定の変更がなされた結果、工場等の緑地が大きく減少した。

**【課題及び今後の取組みの方向性】**  
 第2次実施計画においても、「公園緑地の整備」などの各種事業を着実に推進し、市街地内の緑地を確保するとともに、「工場・事業所等の緑化の推進」では、湾岸地区の工業系用途地域における事業所系の緑化協定にあたり、努力目標である「将来緑化率20%以上」となるように努める旨、引き続き働きかけていく。

## 指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	特別緑地保全地区の指定	特別緑地保全地区の指定	11地区(51.3ha)	2地区(3.4ha増)	13地区(54.7ha)	13地区(61.1ha)	達成	268,636
2	市民緑地の設置	市民緑地の設置	16か所(19.4ha)	6か所(6ha)	22か所(25.4ha)	19か所(21.8ha)	未達成	767
3	公園緑地の整備(街区公園(身近な公園))	街区公園(身近な公園)	—	整備 3か所	整備 3か所	整備 3か所	達成	2,149,382
4	公園緑地の整備(花島公園)	花島公園	供用 17.7ha	整備(緑園ゾーンの一部) 約3.0ha	供用 20.7ha	供用 21.7ha	達成	
5	公園緑地の整備(都川水の里公園)	都川水の里公園	供用 2.2ha	用地取得 0.6ha	供用 2.2ha	供用 2.2ha	達成	
6	公園緑地の整備(蘇我スポーツ公園)	蘇我スポーツ公園	供用 22.5ha	用地取得 約3.3ha 第3駐車場・第1多目的グラウンドの整備 4.1ha	供用 26.6ha	供用 53.6ha	達成	
7	緑地協定の推進	緑地協定の認可	175地区	2地区/年増	181地区	176地区	未達成	0
8	工場・事業所等の緑化の推進	緑化協定の締結数	841件	5件/年増	856件	854件	概ね達成	0

## その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
-----	-----	--------	--------	-------------	--------	--------	----	-------------

# 政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ
施策	1-1-1 緑と水辺の保全・活用

指標NO	4
------	---

指標名	谷津田の保全活動等の参加者数	単位	人
-----	----------------	----	---

指標の説明	大草谷津田いきものの里における田んぼや森づくり、動植物調査の活動者や大草観察会の参加者数、および新たに保全活動を推進する谷津田における活動への協力、参加者数	担当局(区)	環境局
-------	--	--------	-----

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	440	470	500	◎
現状値	409	519	—	—	

目標設定の考え方	大草谷津田いきものの里のボランティア活動や定期観察会への参加者の確保を引き続き図るとともに、小倉地区や大藪池地区等において谷津田保全の活動協定を結び、谷津田保全活動への協力・参加者数の確保に努める。
----------	---

【達成状況の分析】  
 平成26年度に新たに2団体と活動協定を締結したこと、大草自然観察会が例年に比べ天候に恵まれ中止とならずに開催でき、1回あたりの参加者も多かったこと、小倉地区での自然観察会を始めたこと、などにより計画以上に保全活動等に参加する人数が増加した。

【課題及び今後の取組みの方向性】  
 平成26年度末で、最終の目標値を達成しているが、自然観察会はその年の天候等により参加者が増減するので、開催場所や内容を適宜見直しながら魅力ある観察会等を行っていく必要がある。  
 一方、谷津田の保全活動を行う活動団体への参加者は、観察会と異なり年間を通じて固定されるので、さらに活動協定締結団体を増やすべく、取組みを進め、谷津田の保全活動の参加者を確保していくこととする。

## 指標を構成する事業

### 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	谷津田の保全と活用の推進	谷津田保全協定の締結	42.8ha	9ha 拡大	51.8ha	51.2ha	概ね達成	840
2	谷津田の保全と活用の推進	NPO団体等への活動支援	1団体	3団体増	4団体	3団体 ★	未達成	

### その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	大草谷津田いきものの里における自然観察会事業	毎月第1・3日曜日(年約20回)開催	年22回	継続	継続	継続	達成	132
2	自然保護ボランティア育成講座	全6回の連続講座の開催	年6回	継続	継続	継続	達成	620

# 政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ
施策	1-1-2 やすらぎとにぎわいのある海辺の創出

指標NO	5
------	---

指標名	市内の海辺に魅力を感じる	単位	%
-----	--------------	----	---

担当局(区)	都市局
--------	-----

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	41.0	46.0	50.0	△
現状値	36.8	37.9	—	—	

目標設定の考え方	中央港地区の旅客船さん橋の整備や人工海浜を生かした取組みを推進することで、海辺に足を運ぶ機会を増やすことを目指し、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】	<p>魅力ある海辺空間を創出するため、その他事業の幕張海浜公園での「花火大会開催(幕張ビーチ花火フェスタ)」や、千葉ポートタワー・ポートパークでの「千葉市民産業まつり開催(千葉湊大漁まつり)」など、にぎわいを創出するイベントを開催してきた。また、計画事業「千葉中央港地区まちづくりの推進(旅客船の運航)」では、工場夜景クルーズや高速ジェット船クルーズなど、海上交通の運行実験を継続的に実施し、市民が海辺に訪れる機会を提供してきた。</p> <p>H26年末現状値は、これらの各種イベント等の成果によってH23末現状値より数値が向上しているが、計画事業「稲毛海浜公園の改修」や「千葉中央港地区まちづくりの推進(旅客船さん橋の整備)」などのハード整備については、26年度末時点で「実施設計」や「工事」の段階であり、現段階では海辺の魅力向上に十分つながらなかったと考えられる。</p>
【課題及び今後の取組みの方向性】	<p>これまで実施してきた海辺のにぎわいを創出している花火大会や千葉ポートタワー・ポートパーク、3つの海浜公園エリアなどでの各種イベントについては、今後も市民に積極的に周知し開催していく。</p> <p>また、第2次実施計画事業「稲毛海浜公園の再整備」の取組みを着実に進めるとともに、「千葉中央港地区まちづくりの推進」の取組みとして、本市の新たな海の玄関口として市民のにぎわいや憩いのある親水空間を提供するため、平成28年4月に供用開始した旅客船さん橋や港湾緑地、ターミナル等を活用し、周辺施設と連携したイベントの開催や旅客船の運航などを実施していくことで、市民への海辺のイメージ向上を図る。</p> <p>さらに、稲毛～幕張海浜エリアを魅力的で活気あふれるエリアとするため、平成28年3月に策定した「海辺のグランドデザイン」に基づき、民間活力を積極的に導入し、地域による活性化の取組みを促進して海辺の新たな魅力づくりを進めていく。</p>

## 指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	稲毛海浜公園の改修	ヨットハーバーの浚渫	—	測量・実施設計	実施設計	実施設計	達成	5,756
2	稲毛海浜公園の改修	検見川の浜活性化施設整備	—	調査	調査	調査	達成	
3	千葉中央港地区まちづくりの推進	旅客船さん橋の整備	港湾施設基礎工事	旅客船さん橋整備	旅客船さん橋整備	旅客船さん橋整備	達成	476,554
4	千葉中央港地区まちづくりの推進	旅客船の運航	9日間(23年度事業量)	6日間/年	6日間/年	7日間/年	達成	

## その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	花火大会開催	幕張ビーチ花火フェスタ(来場者数)	—	30万人	30万人	30万人	達成	48,000
2	千葉ポートタワー管理運営	管理運営(入場者数)	114,000人	84,000人増	198,000人	129,492人	未達成	210,000
3	稲毛海浜公園管理運営	管理運営	実施	実施	実施	実施	達成	0
4	千葉市民産業まつり開催	千葉湊大漁まつり(来場者数)	—	5万人	5万人	6万人	達成	3,000

# 政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ
施策	1-1-2 やすらぎとにぎわいのある海辺の創出

指標NO	6
------	---

指標名	この1年間に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある	単位	%
-----	------------------------------	----	---

担当局(区)	都市局
--------	-----

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	44.0	47.0	50.0	×
現状値	41.4	38.9	—	—	

目標設定の考え方	中央港地区の旅客船さん橋の整備や人工海浜を生かした取組みを推進することで、海辺に足を運ぶ機会を増やすことを目指し、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】	<p>魅力ある海辺空間を創出するため、その他事業の幕張海浜公園での「花火大会開催(幕張ビーチ花火フェスタ)」や、千葉ポートタワー・ポートパークでの「千葉市民産業まつり開催(千葉湊大漁まつり)」など、にぎわいを創出するイベントを開催してきた。また、計画事業「千葉中央港地区まちづくりの推進(旅客船の運航)」では、工場夜景クルーズや高速ジェット船クルーズなど、海上交通の運行実験を継続的に実施し、市民が海辺を訪れる機会を提供してきた。</p> <p>H26末では、幕張ビーチ花火フェスタなどのイベントの来場者数は目標を達成し、ポートタワーの入場者数も目標は達成できなかったものの増加傾向である。また、稲毛海浜公園の利用者数も約5万人増加しているが、計画事業「稲毛海浜公園の改修」や「千葉中央港地区まちづくりの推進(旅客船さん橋の整備)」などのハード整備については、26年度末時点で「実施設計」や「工事」の段階であり、「海辺に足を運ぶ機会を増やす」ことにつながらなかったと考えられる。また、今まであまり海辺を訪れたことのない市民に対し、海辺を訪れる機会の提供も不十分だったと考えられる。</p>
【課題及び今後の取組みの方向性】	<p>これまで実施してきた花火大会や千葉ポートタワー・ポートパーク、3つの海浜公園エリアなどでの各種イベントについては、今後も市民に積極的に周知し開催していく。</p> <p>また、第2次実施計画事業「稲毛海浜公園の再整備」の取組みを着実に進めるとともに、「千葉中央港地区まちづくりの推進」の取組みとして、本市の新たな海の玄関口として市民に、にぎわいや憩いのある親水空間を提供するため、平成28年4月に供用開始した旅客船さん橋や港湾緑地、ターミナル等を活用し、周辺施設と連携したイベントの開催や旅客船の運航などを実施していくことで、市民が海辺を訪れる機会を提供していく。</p> <p>さらに、稲毛～幕張海浜エリアを魅力的で活気あふれるエリアとするため、平成28年3月に策定した「海辺のグランドデザイン」に基づき、民間活力を積極的に導入し、地域による活性化の取組みを促進して海辺の新たな魅力づくりを進めていく。</p>

## 指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	稲毛海浜公園の改修	ヨットハーバーの浚渫	—	測量・実施設計	実施設計	実施設計	達成	5,756
2	稲毛海浜公園の改修	検見川の浜活性化施設整備	—	調査	調査	調査	達成	
3	千葉中央港地区まちづくりの推進	旅客船さん橋の整備	港湾施設基礎工事	旅客船さん橋整備	旅客船さん橋整備	旅客船さん橋整備	達成	476,554
4	千葉中央港地区まちづくりの推進	旅客船の運航	9日間(23年度事業量)	6日間/年	6日間/年	7日間/年	達成	

## その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	花火大会開催	幕張ビーチ花火フェスタ(来場者数)	—	30万人	30万人	30万人	達成	48,000
2	千葉ポートタワー管理運営	管理運営(入場者数)	114,000人	84,000人増	198,000人	129,492人	未達成	210,000
3	稲毛海浜公園管理運営	管理運営	実施	実施	実施	実施	達成	0
4	千葉市民産業まつり開催	千葉湊大漁まつり(来場者数)	—	5万人	5万人	6万人	達成	3,000

# 政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	5-3 都市農林業を振興する
施策	5-3-3 農村と森林の持つ多面的機能の活用

指標NO	171
------	-----

指標名	里山の保全活動参加者数	単位	人
-----	-------------	----	---

指標の説明	里山の保全活動に参加した市民及び企業等の参加者数	担当局(区)	経済農政局
-------	--------------------------	--------	-------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	200	400	600	△
現状値	111	150	—	—	

目標設定の考え方	新たな里山の指定や普及啓発活動によって、現在活動している森林ボランティアの他、市民や企業の参画の拡大を目指すことから、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】	現在、活動している森林ボランティア団体は高齢化が進み、活動が困難となり離脱するケースがみられる。特に新規、若手参加者の獲得に苦慮している状況である。背景には「現役(若手)世代はボランティア活動を行う時間や余裕が無い。」「森林保全活動に対する魅力が薄い。」「ボランティアの具体的な成果がすぐには表れない。」などの要因が考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】	里山の指定・保全をととして、森林にかかわる人づくりの推進を図り、健全な森づくりを進めていくとともに、新たなボランティア団体の設立やリーダーとなる人材の育成に努める。その中で、森林の果たす役割や保全する重要性、そして森林ボランティアの魅力・意義をイベントや広報で市民に伝えていくことに加え、森林活動単体ではなく、環境問題全体も視野に入れ、PRを行っていく。

## 指標を構成する事業

								(千円)
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	里山の保全	里山地区の指定	3か所	1か所	4か所	4か所	達成	1,632
2	里山の保全	里山地区の維持管理団体への助成	—	2団体	2団体	2団体	達成	

## その他事業

								(千円)
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	森林ボランティア推進事業	林業技術研修および安全研修	10人	50人/年	50人/年	39人/年	未達成	226